

鈴木会頭コラム 新会館について

1971年(昭和46年)築の会館は今年で43歳。人間なら働き盛りですが、コンクリートの建物としてはかなりの老年です。現在の会館が建っている土地は小田原市の持ち物で、会議所がお借りしてその上に建物を建てたものです。小田原城に至近の文化財保存の地区に入っているため、同じ場所に建て替えることはできない上、今後のお城周辺の整備のためにも早晩移転をしなければなりません。耐震補強工事は済ませておりますので、建物自体が今すぐ危険ということではないのですが、年初の活動計画にも明記いたしましたように、具体の計画づくりに着手してまいります。

そんな折、まちなかの再開発を目指している方々から、再開発の核として商工会議所に来てもらえないだろうかとお誘いを受けました。常議員会で検討の結果、その協議のテーブルに乗ろうということになり、地権者、小田原市、そして当所が入った協議会が6月にスタートしました。9月頃には「実施できるとしたらこんな計画で」という提案が出てくる見込みです。それと並行して、会議所内では、今まで調査検討してきた少年院の移転があった場合の跡地、あるいは、小田原市から打診を受けた駅前のお城通りの再開発への参加という選択肢も交えて調査・研究していきます。具体的には部会代表と自薦の議員さんから成るプロジェクトチームを立ち上げ、できれば10月、遅くとも年内までの答申を依頼しました。その答申を元に、さらに所内全体での議論を深め、結論を出したいと思っております。東京オリンピック・パラリンピックを前に建設コストのさらなる上昇が懸念されます。選択肢によっては実現まで十数年か数十年かかるものもありそうです。まだまだ、いくつも高い越えなくてはならないハードルがありそうです。

大切なお金を使う一大事業でありますので、会議所会員さんにとって、また、まちの活性化に寄与できる意味のあるものにしないでと、慎重かつスピーディに動きたいと思っております。会頭としては、会員の皆さんが気軽に立ち寄り、便利に使っていただけるオープンな雰囲気の会館が一日も早く欲しいと思っています。進捗はまたご報告いたします。

会頭 鈴木悌介